



# 学校だより

令和8年2月25日  
第10号(2月号)  
新潟市立岡方第二小学校

ほめて みとめて ありがとう

## 雪から生まれたもの 校長 田巻 幸雄

「今季は暖冬少雪傾向」と昨年末の予報を記憶しています。しかし、1月下旬からの寒波は、予報を覆すとともに日常生活にも大きな影響を与えています。ご家庭やご親戚等で被害に遭われた方がいましたら、紙面を通してお見舞い申し上げます。

先日、除雪作業を行う6年生の姿が見られました。担任に聞くと、家庭科「地域の皆さんに喜んでもらおうプロジェクト」の一環で、6年生の子どもたちが自主的に発案した作業とのこと。さらには、総合学習交流会で岡方第一小学校の実践発表を聞いて、「地域のために…」という思いが芽生えたのではないかとのこと。



「地域のために除雪をやりたい」という思いを実現させるために、6年生は、北警察署や北区役所に依頼の電話をかけたり、地域教育コーディネーターに調整を聞いてもらったりしました。除雪作業という、いわば表舞台のために、目立たぬ事前準備まできちんとこなす姿に成長を感じました。

「体格も立派で頼もしかったです」

「いい姿が見られてうれしくなりました」

除雪作業中、園長先生や一緒に活動して下さったボランティアからこのような感想を聞くことができました。

「疲れたもあるけど、達成感もある」

「0歳ぐらいの子もいるとのこと、みんなにけがをしてほしくないし、安全に歩けるように意識しました」

「地域の人から、『がんばれ』『お疲れ様』と言われてとてもうれしかったです」  
このような6年生の感想が掲示されています。

聞く側はもちろん、口にする側も気持ちよい言葉です。寒い中価値ある時間と空間を作り出した6年生に大きな拍手を送ります。



雪は、時に日常生活を混乱させ、心身の負担を与え、さらには命を脅かす存在になります。一方で、遊びやレジャーの対象や生活用水や農業用水といった自然の恵みという優しい存在にもなります。わたしたちのふるさと新潟にとって、雪とのつながりは半永久的です。その中で生まれた6年生の価値ある姿は、雪から生まれた宝のようなものではないでしょうか。

1月8日に再開した教育活動は、順調に進んでおります。寒い日は続きますが、立春が過ぎ、春は確実に近づいています。令和7年度の締めくくり、そして卒業・進級に向け、あの6年生の姿に負けないように力強く教育活動を進めてまいります。